



都市幼稚園の園外保育の實際

東京都港區立西櫻幼稚園

園外保育が幼稚園に於いて幼児を教育する上に最も大切な使命を持つ事は申す迄もない事で、「幼児の心身の発達を助長せしむる」爲め欠く事の出来ない重要性を持つて居ります。

子供は戸外の遊びを喜び、殊に他処に連れて行つてもらう事は何よりも嬉しい事なのであります。恵まれた環境・完全な設備の幼稚園の中で如何に立派な保育がなされて居るとしても、より良い心身の発達爲めに又健康保育の目的の爲めにも園外保育は是非とも必要なものであります。

幼児を園外に連れ出すことによつて、社会生活の観察や、社会道徳の実践をする事が出来ます。

当園では特に園外保育を重要と認めて四季を通じて度々多く実施いたして保育の不備を補う事に致して居ります。

一、當園に於て特に園外保育の重要な理由

1 當園の施設から見て

○小学校に併設されて居るので専用の庭園を持たない。

2 家庭の地域環境から見て

○運動場が狭いので砂場を設ける場所がない。

○運動場の周囲に自然物が少ない。

○交通繁華な都心にある爲に自然に接する機会がない。

○家庭は商家が多く幼児の教育に関心を持つ暇が乏しく

○郊外に連れて行く事が少ない。

○附近に自由に遊べる広場がない。

右の事情にある幼稚園では子供達が天空の下に大地を駆け巡り、四季の自然観察・動植物の観察等自然に親しむ機会を園外保育によつて充分に与え度いのであります。

二、園外保育立案の準備

幼稚園の中での保育と園外に連れ出しての保育とを考えると見ますと、園外に連れ出すことの方がむずかしい事は誰れしも感じている事ですが、園外保育の重要性を考える時、私達は困難を克服して園児達の成長発達爲に進んで行く勇気を

喚起しなければなりません。

先ず「幼児の実態調査」と「実地調査」を行いました。

1 幼児の実態調査

○家庭の地域 ○職業 ○子供の教育に対する関心

この調査によりまして家庭の環境は幼稚園と同様で、その職業は商業、中小工業が多く家業に忙しい爲に子供の教育に對して関心を持つては居ても何もしてやる事が出来ない。従つて休日等でも、子供本位の外出、例えばビクニック等することはめつたにない。たまたに休業日等に外出する時は大人本位の用向きで銀座に行くとか、デパート或は映画等に連て行く位の事で子供の教育の爲めにはならない事が多いのです。

2 實地調査

1 目的地の選定

愛宕山。明治神宮外苑。日比谷公園。上野公園。上野動物園。井の頭公園。

2 實地踏査

實地踏査に當つては道順及乗物利用の場合は駅との連絡をとる。

目的の場所では ○便所の位置、手洗所の有無によつて遊び場所を定めておきます。 ○入場料、入園料、使用料等を必要とする場所では予め連絡をとつておく必要があります。

3 目的地の決定

踏査の結果、適当と認められた所を決定します。

4 家庭との連絡

場所と方法との決定によつて年次計画を立てその実施の徹底を期する爲に保護者を開いて計画の趣旨及び、方法、保護者への注意等を話しておきます。又その都度刷物によつて連絡をとり、保護者の協力を求める事にします。(精神的協力)

三、年次計畫

最少限度一週に一回の園外保育を行うことにしてこの場合は附添なしで成べく近くへ行くことにし、春秋二回位は保護者同伴、普段余り行く事の出来ない郊外に行くこと。この計画の下に別表の年次計画を立て実行に移ることにした。

四、當園に於ける園外保育の實際

前項の年次計画により大体予定の通り実行しました。記録の中から抜き書きして實際の様子を表すことにしました。

四月十二日 愛宕山行き。入園以来一週間幼稚園生活にも馴れたのはじめて園外へ軽いお散歩を試みる。行く時に先ず、お友達と手をはなさないこと、間をあげないで歩きましょう、と二つ約束をして愛宕山へでかける、年少組は年長二年保育児と手をつないでいたゞいて元気よく坂道を登る。「左側を通りましょうね」と注意しつゝ歩く、頂上について危険な場所に行かないよう話をしてからあそぶ。

丁度吉野桜が美しく風に吹かれて散つてゆくさまも見え、「先生奪みたいね」との表現も生れる。又「あ、海だ、海だ」と遠く芝浦の海岸が望まれているのを喜ぶ。二十分位たのしんでから人員を調べて帰園する。

四月二十日 愛宕山行き。今日も先週と同様散歩にでかける。この前の時と同じ約束をしてから前列と後列にしつかりしている子供をえらんでかける。桜の花もすつかり散つて葉桜である。大きな木の下でこの葉桜になるまでを子供たちと話し合う。道々さくらの花ちうたい出すと期せずして一齊にうた声がる。気持よさそらな心の底から湧き出たような声で思わず美しいなあと感じた。今日はじめて電車通りを渡る。山村先生が通りの中央に立たれ四方に気を配られ乍ら笛で合図しつゝ「かけあしかけあし」と声をかけられる、四列になつて渡るので間隔が短かく、したがつて子供の注意がちらに集中して難なく横断出来た。

四月二十八日 明治神宮外苑行。今日は父兄同伴の遠足会である。地下鉄乗車までは整列して父兄の方は後についていたとき、電車の中はお母さま方に責任をもつよう前でお願ひしておく。

二つ目の青山一丁目下車である。赤坂見付を発車して駅も近くなつてから「この次降りますよ」と注意すると「ハイ」「ハイ」と元気に返事する、真先に降りて迎えると、あつちからも、こつちからも、チョロ／＼と人をかきわけて出て来るさまは丁度ねすみさまながらである。全部降り切つて「さあ

さつきの通りにならびましょう」というとロメに「さつきの通り、さつきの通り」と節をつけてうたい乍らきちんと整列する。初夏でその上雨に洗われた緑が目にしみるようである。誰かが「いちようのトンネルだね」というと皆「トンネルだ、トンネルだ」と大喜びである。「この前来た時よりもすい分葉が大きくなつたでしょう」というと「先生この前の時は赤ちやんだつたから今は子供だね」とMちやん、うれしそうである。荷物をおいてから、◎先生方の見えるところであそびましよう、◎木には登らないように、とお約束をしてから遊ぶ。

七月十三日 今学期最後の日比谷公園行である。暑いので少々だれ気味、列もみだれがちであるが、うたをうたつたり「もうすぐですよ」とはげましたりして歩く。だれ気味の時は特に注意しなければ、怪我がおきやすい可能性があるので周囲に特に気をつける。

食事は十一時少し早目に樹蔭の涼しいところを、えらび、いつもの通り便所、手洗いうがいをすませて芝生に足を出していたゞけるよう支度する。皆揃つてから「召し上れ」「どうもありがとうございます」「いたゞきます」とあいさつをして箸をとる。水筒の用意のない子供には、持参のやかんに水を汲んでおくと、すぐに役立つ。一粒も残さず、きれいにいたゞいて「ごちそうさま」のあいさつをすませ「少しやすみましよう」の言葉もきけばこそ、もうそここゝに鬼ごつてがはじまる、十一時半に集つて、帰路につく。

八月六日 夏季保育第二日目、日比谷公園のシャワーの出るところを半日開放していたゞいて遊ぶ。一組二十名——二十五名で百人位であった。

用意の水着、パンツに着替え、自分の衣類はきちんと一まとめにさせてから、山村先生の笛の合図で各組交替にシャワーを浴び、水槽にとびこみ金魚のおもちや等、好きなもので遊ぶ、正に子供の裸の天国である。程よい時間に全部上つて身体をよくふかせ身支度をととのえて樹蔭でお弁当にする。

九月十五日 二学期最初の園外保育で外苑行である。出席数一組四十名から四十五名である、いちようのトンネルをくゞつて芝生に荷物をおくのもどかしく、もうそここゝにバツタを追う者、花つみに興じる者、嬉々としてとびまわる。

芝生の向いの補装道路を教練の馬がひづめの音をさせ始めると「馬だ、馬だ」と珍らしげにかけてゆく、れんげの花をつんでは持つて来てくれるので、花かざりを作り始めると女児が集つて来て「先生、私にも作つて」そこで「教えてあげますから一緒にしましょう」というと喜んでまねをする、そして即席の指輪や腕輪に大はしやぎである。

十月十三日 外苑へゆく予定のところ空模様が悪いので日比谷公園に変更となる、今日はおやつをお家から少しづつ持つて来てよいので、やはりうれしそうな面持である。便所をすませて九時半出発、田村町交叉点からNHKの前に来た時二、三の子供が「この間僕たちこゝに来たね」と話しかけて来たので「こゝはどこでしょう」と問うと「ラジオだよ」「放

送局だよ」との答えで正しい方をとつて教える。リユツクサツクを芝生において、この間約束したスポーツランドへ入る。山村先生のお話の終るのをまちかねたように遊具にとびついてゆく、家庭でもあまり外に連れていっていただけない子供たちが多いだけに、その喜びはいじらしい位である。自轉車、スクーター、ジープも一まわりづつ、長蛇の列を使つておとなしく自分の番を待つている。更にローラーシュートにも三人づつ乗せて頂いて満足気である。遊び足りない子供を時間の關係で外へ出し食事にする、おやつはおべんとりのすんだ方から、少しだけいたゞく、かえりはいつもながら、列がみだれ、あつちへふらふら、こつちへふらふら、そこで今日は一計を案じて先頭を歩く子供を曲り角が来る度に一番後へゆかせ、又角が来ると後に、これを繰返していると皆が一度は先頭になれるので「まだ自分の番は来ないかしら」と緊張したりたのしみしたりして歩くので、いつのまにか列が整つて大きい声を出さなくてもすみ大へん効果が上つた。

十月十七日 秋晴れの上天気である。今日は象さんが上野動物園に来て以来はじめての、動物園行でまだ見ぬ子供も見えて来た子供も朝から大へんな張りきりようである。「ね、象さん、何食べてた」「うん、りんごだつてパンだつて食べてたよ」「どんなにかつこうしている」「大きいんだよ」と象の恰好までして見せる、子供同志の間答である。今日は省線を利用する、相変らず混んでいるがもう馴れたもので、はしやぎまわつている。上野駅で下車、動物園に一路いそぐ途中少し

中の様子を見るため、遊園地でおやつをいただいたが水道の設備がないので手をよく、ふかせた、公園には必ず水の設備がほしいと思つた。

十分位やすんで中へ入つたが、相当混雑していて、旗を目印にした団体客が多い、どの顔もはぐれまいとして懸命である。十一時、正門に集合ということにして、各組が自由行動をとる。「先生早く象を見よう」とせきたてられて、象のところへゆくと黒山の人だかりである。これでは到底列など作つては見られないと思つたので、列をほどいて「あいているところへ入つて見ていらつしやい」というと、くもの子をちらすように、それ／＼間をくゞつて前へ出て、いつてしまつた。どこに誰がいるのか、見当もつかない、しばらく立つてから用意していつた笛を出してふき、「西桜幼稚園の方たちいらつしやい」と呼ぶと、前の方から人を押し分けて出て来る。元氣のよい、顔、顔、顔、どの顔もおどろきとうれしさの入り交つた表情を湛えていた。キリンの剝製の前に来る。「キリンはりんごを食はずぎて死んだんだね」「これはキリンの骨だよ」と盛んにうなづき合つているKちゃんやんやん、Yちゃん、キリンの剝製のお話をしてあげると、腫を輝かせて聞き入る。この子供たちの澄んだ瞳の美しさ、私共保育者のみに味わえるこの喜びである。象を贈られて間もない満員の動物園、しかも附添もなしでこうして来たのに、迷子一人出なかつたことを思う時、普段からの躰が、この結果になつてあらわれたのを非常にうれしく感じた。

十一月四日 小春日和のよいお天氣に恵まれて、外苑へゆき、今日は電車がすいていて赤坂見付まで来た時、席が一つ空いた、するとSちゃんやんとMちゃんやんが、同時にそれを見付けて走り寄つたので、喧嘩にならなければよいがと思いつまばらく様子を見ることにした、近くの乗客の視線も二人に注がれていた、それとは知らないSちゃんやんと、Mちゃんやん、何か二言三言、はなしていると思つたら、いきなりジャンケンポンとやり出した。SちゃんやんがPでMちゃんやんがチョキである、負けたSちゃんやん、どうするかしら、と尙も見ていると、さつと突に思い切りよくその場所をはなれてもう何事もなかつたように丸い腫をくる／＼と動かしている、そのあどけない顔を見ていたらあつてものがじーんと、胸にこみあげて来た、又成り行きいかにと見守つていらした他の乗客の顔にも温いほゝえみが浮んで消えなかつた。

いちようのトンネルも黄葉していたが、まだ落葉は少くその中を元氣よく歩く、先頭のKちゃんやん、入園以来あまり口をきかず、笑顔もめつたに見せたことがないが、ふと氣付くと「朝露ふんで……」のうた声に小さな口を一杯にあけて、うたつていゝる。うたい終ると、はずんだ声で「先生、いちようが黄色くなつたわね」「え、うれしさの余り思わす返事をする、明るい自然の中に母親とはなれてこうして遠足して見ると子供の氣持が、こもも伸び／＼となるものなのか、今更乍ら先生一人を信頼するといふことが子供の氣持をこんなまで近付けてくれたのだと思ひ身にしみてうれしかつた。

A子ちゃんが「いちよりのトンネルきれいだなあ」と節をつけてうたつたので、それをほめて皆でうたつて見る、土手へ登るとトロッコとトラツクが土を運んで来ては「ざあー」とあけると、又戻つてゆく、「先生、あれなあに」「あれ知らないの、トロッコだよ」と得意気なOちゃん、「あ蛙だ、青蛙だ」とSちゃんが見付ける、大きな蛙である。忽ち子供たちで一杯、わあーという歓声に蛙もおどろいてかピョンとどぶ、それにつれて子供たちも追いかけはじめたがとう／＼草むらの中に姿を見失つてしまつた、そう／＼明日は蛙のお話をしてあげようと思う。

十一月二十九日 動物園行き。昨日まで雨であつたのにすつかり上つてよいお天気である。園外保育日というと決つてよい日和となるので「私達、日頃の心掛けがいゝからよ」と大いに自慢し合う、時期にもはずれていた故か動物園はすいていたので、この前の時よりもすつと樂であつた。象のインディアラさんを檻の外に出していたゞいて記念撮影、余りそばにいたので、嬉しいような怖いような意味深長の顔である。おさるの電車にも一人残らず乗り、組をほどこいてゆつくり動物たちと親しんだ、昨日まで雨の爲か、水たまりがありすべつて泥んこになつた子供があつたが、用意のパンツ、ズボンが役に立つた。午後一時名残りおしげに動物園を出た。

五、園外保育の効果

以上の経験によりまして、その期待した効果がどのやうな結果を得たかを省みますと左のような効果をあげることが出来ました。

- 1 身体的発達の効果。
- 2 観察の方面からの効果。
- 3 視野が拡大される爲、絵画、製作等に現れた効果。
- 4 社会訓練及実社会の実態をつかむ公共道徳の実践的効果。

- 5 交通訓練を理解させ、協力させる効果。
- 6 自立の精神を養ひ躰の効果。
- 7 個性の把握の好機会であつた。
- 8 家庭教育に及す影響。
- 9 一般社会人に幼稚園教育を理解させ、協力させることが出来る。

以上のような結果を得ましたので、今後一層研究努力してよりよい効果をあげたいと思つて居ります。

(此の記録は本園前主任山村きよ氏——現東京都保育指導主事の在任中の企画と実施に基いたものであります。(西櫻幼稚園))